

『本』にならなかつた本——

六年という時間をかけて中国の職人六人に取材した、聞き書きの名手・塩野米松氏による『中国の職人』。紙の『本』では出版されず、電子書籍で全文公開された作品の世界を再現します。

塩野米松聞き書き

『中国の職人』展



2019
4/6(土)~8/25(日)
新潮社
記念文学館

開館時間 午前9時~午後5時
(入館は午後4時30分まで)

休館日 月曜日
※4/22, 4/29, 5/6, 7/15, 8/12 は開館

観覧料 大人(高校生以上)300円
小中学生150円
※団体割引あり、仙北市民無料

〒014-0311 秋田県仙北市角館町田町上丁23
電話 0187-43-3333 (仙北市学習資料館共通)
主催 仙北市・仙北市教育委員会
協力 塩野米松氏 田中泰延氏 ほぼ日刊イトイ新聞

『本』にならなかつた本 塩野米松 聞き書き『中国の職人』展

六年という時間をかけて中国の職人六人に取材した、聞き書きの名手・塩野米松氏による『中国の職人』。紙の『本』では出版されず、電子書籍で全文公開された作品の世界を再現した展示です。館内ではなんと、「四の巻」 喻湘蓮（恵山泥人形師）をまるまる、大きな印刷で読むことができます。いつぼいつぼ歩きながら作品世界を楽しめます。

※展示資料は変更になる場合があります。

塩野米松『中国の職人』まえがきより

この本に登場していただく6人は、いずれも中国工芸美術大師である。日本でいえば無形文化財、人間国宝にあたる人達だ。このなかで一番年長が茶壺、盆栽用鉢作りの徐漢棠師^{シユハンタン}で1932年(昭和7年)生まれ。弟で茶壺への彫り物や陶塑作りの徐秀棠師^{シユシュウタン}が1937年(昭和12年)、景德鎮で青花分水という独自の彩色を完成させた黄売九師^{ホアンマイジウ}が1938年(昭和13年)、恵山泥人形^{ユイシヤンリョウ}の喻湘蓮師^{ウイシヤンリョウ}が1940年(昭和15年)、同じく人形の彩色や小道具、仕上げの王南仙師^{ワンナンシエン}が1941年(昭和16年)、一番若い周桂珍さん^{シウクワイゼン}が1943年(昭和18年)生まれである。

昭和6年に満州事変が起き、7年に満州国建国^{ハンタン}を宣言している。漢棠師はこの年の生まれである。弟の秀棠師^{シユウタン}は日中戦争が始まった12年生まれだ。一番若い周師^{シウ}が生まれた18年頃は最も戦争が激しかったとき。みなさんが日中戦争の最中に生まれ育った方々だ。

敢えてこの時代の人を選んだわけではなかったが、お話を聞き、そのことがわかったのである。(後略)

ほぼ日刊イトイ新聞

https://www.1101.com/yonematsu_shiono/book/ より転載



©ほぼ日刊イトイ新聞

塩野米松氏 × ほぼ日 トークイベント

塩野米松氏と『中国の職人』が無料公開されたサイト『ほぼ日刊イトイ新聞』奥野氏によるトークイベントです。どんな話が飛び出すかは、当日のお楽しみ!

○日時 未定 ○場所 新潮社記念文学館 ○定員 20人

※詳細は決まり次第仙北市HPに掲載いたします

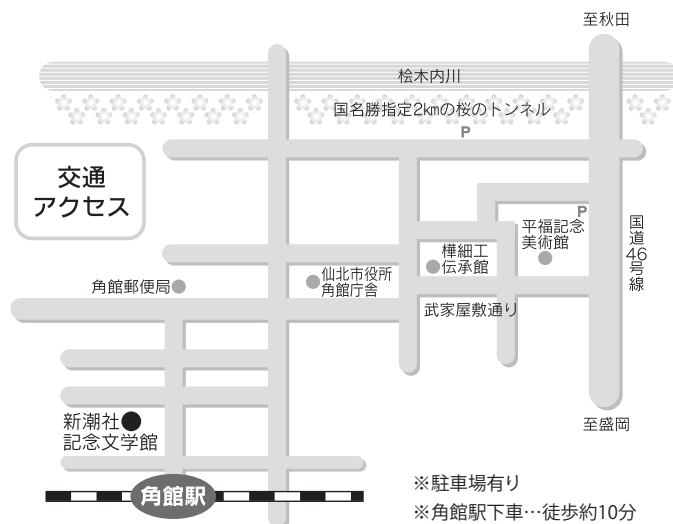
仙北市HP <https://www.city.semboku.akita.jp/>

塩野米松 しおの・よねまつ

1947年秋田県角館町(現仙北市)生まれ。作家。聞き書きの名手で、失われゆく伝統文化・技術の記録に精力的に取り組んでいる。

○聞き書きの著作

『初代竹内洋岳に聞く』『登頂 竹内洋岳』『百年の梅仕事』『桜のいのち庭のころ』『手業に学べ心/技』『聞き書きにつぼんの漁師』(筑摩書房)、『昭和という時代を生きて』(岩波書店)、『不揃いの木を組む』(文芸春秋)、『木のいのち木のころ(天・地・人)』(新潮社)、『屋久島の山守千年の仕事』(草思社)、『魂の酒』(ポプラ社)、『刀工・宮入小左衛門行平と現代の刀職たち』(KADOKAWA)ほか多数。



※駐車場有り

※角館駅下車…徒歩約10分